

KANSAI UNIVERSITY

関西大学

社会安全学部 安全マネジメント学科



THINK x ACT KANSAI UNIVERSITY



5 6 Thu. at TAKATSUKI Muse Campus 16:20~17:50 高野 一彦 准教授



「情報にはさまざまな法的側面があります。このケース、まず個人情報シヨップ形式で行われる。」

「情報にはさまざまな法的側面があります。このケース、まず個人情報シヨップ形式で行われる。」

本日の講義「安全と法制度」は、具体的な事例を取り上げ、法的側面から安全な社会のあり方を考察していく講義だ。この日は、3回にわたる「情報法」の第2回目の講義。近年頻発している企業の情報漏えい事件を通して、「情報」にかかる法律を俯瞰的に捉え、企業のあるべきコンプライアンス体制を考える内容。まずは正面のスクリーンに模擬ケースが映し出された。「カタログ通販会社A社の元アルバイト社員が顧客リストを無断で持ち出し、名簿会社へ売却してしまった。A社は元アルバイト社員にどういう法的措置を講じることが出来るか?」講義は、学生参加型のワークショップ形式で行われる。

「いや、この法律は個人の処罰には使えないんじゃないですか。意見が飛び交う。先生は大きな教室を駆けまわりながら、学生の声を聞いて聞いていく。」「どうしてそう思った?」「その根拠は?」「スピーディーな対話が繰り返されていく。答えはどうか。「個人情報保護法は行政取締法規と違って、事業者の義務を規定した法律で

「法的な思考」で分析する。情報漏えい事件を「法的な思考」で分析する。情報漏えい事件を「法的な思考」で分析する。

「法的な思考」で分析する。情報漏えい事件を「法的な思考」で分析する。

安全な社会を作り出す プロフェッショナルを養成

建物の耐震偽装、食品の産地偽装、家電製品の事故、個人情報漏えい。私たちの生活を脅かす事件が近年急増している。人々が安全に安心して暮らせる社会をいかに構築するか? これは今の日本にとって最も重要な課題といっても過言ではない。そんな時代の要請によって、2010年春に誕生したのが関西大学社会安全学部。事故や災害、企業のコンプライアンスや危機管理に関するエキスパートの育成を目的とした、まったく新しい学問領域である。

法律の「国家間の不整合」

講義後半では、情報法における「日米の不整合」を検証していった。先生が取り上げたのは、1999年に起こった経済スパイ事件だ。アメリカの研究員が退職する際に遺言子試料を持ち出した日本人研究者が、経済スパイ容疑で起訴された事件である。「冷戦終結後、アメリカでは軍事や先端技術の情報を対象とするスパイ活動が活発になりました。そのような状況から、アメリカは「情報の窃取」に対応するため、1996年に経済スパイ法を制定しました。しかし、日本には同様の法律が整備されていません。情

「このように、情報にかかると法律の特性を把握した上で、企業は情報管理のルールを作らなければなりません」と高野先生は授業を締め括った。

「日本は、営業秘密(Trade Secret)やプライバシーなどの情報にかかると法律の特性を把握した上で、企業は情報管理のルールを作らなければなりません」と高野先生は授業を締め括った。



報の窃取に関する法律は国家によって違いがあることを、具体的な事件を紹介して解説する。

VOICES 学生の声 of University Students



久保田 勇次くん... 半井 直樹くん... 磯谷 理佐さん... 社会安全学部では、理系・文系の学問を横断的に勉強することができます。そこが何となくおもしろいんですね。カリキュラムが幅広い分、勉強すべきことが多く大変ですが、勉強のしがいが多いです。

求められる企業 コンプライアンス部門のプロ

「本来、社会システムとしての法は、社会秩序を維持し、安全に社会生活を送るためのものですが、急速なグローバル化と技術の発展によって社会は激変し、それに伴って法も大きく変化しています。現在、企業はこのような法の変化に十分対応できていないと言われている。その結果、メディアを騒がせるような安全上の問題が噴出していると思われまます」という高野先生。実際に大手企業の法務部門で活躍し、アラライアンスや争訟といった複雑な案件や、内部統制システムの構築などを担当したキャリアを持つ、この世界の第一人者でもある。「ある企業では、10年前はコンプライアンス部門の担当者が数名だったが、今は80名でも仕事が終わらない状態。法が企業に求めるコンプライアンス体制が複雑になっており、専門知識を持った人材の需要が極めて高いのです」と実感を含めて語る。



高野 一彦先生 KAZUHIKO TAKANO 中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了。(法学) (中央大学)。専門は企業法学、情報学。名古屋商科大学大学院マネジメント研究科教授を経て、2010年より現職。大手企業の法務部門に長年所属し、アラライアンスや争訟などの法務案件を担当するとともに、リスクマネジメントの責任者として数多くのクライシス対応を行う。2006年よりコーポレートガバナンス・内部統制の責任者として、持株会社設立、意思決定機関設計および内部統制システムの構築と運用などを行ったキャリアを持つ。

関西大学 資料の請求およびお問い合わせ先 URL http://www.kansai-u.ac.jp/nyusi/ e-mail nyusi-adm@jm.kansai-u.ac.jp 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学 入試センター 入試広報グループ Tel.06-6368-1121 (代)

オープンキャンパス情報 千里山キャンパス(全学部) 6月13日(日) グリーンキャンパス千里山 8月1日(日)・2日(月) サマーキャンパス千里山 1st Stage 8月28日(土) サマーキャンパス千里山 2nd Stage 11月20日(土) オータムキャンパス千里山 ※時間はいずれも10:00~16:00